令和5年度　学校評価総括表　　伊丹市立みずほ幼稚園

教育目標	心豊かに、健やかに生きる子供の育成
重点目標	(1)保育の質の向上を図る　(2)拠点園(D ブロック)としての教育の推進 (3)地域や保護者に開かれた教育の推進　(4)子育て支援教育の実践

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	自分で考え決定して行動する子供の育成	・研究テーマ「主体性を尊重し、支える保育の創造」を研究の視点とし、自ら考え決定して行動する子供の育成に努める。	・保育計画は、短期指導計画を基に、月2回協議を行い、全職員で子供の姿について語り合ったり、個々の課題や関わりについて共通理解を図ったりする。教師の援助を含む、環境の構成の工夫について協議をし、主体性を尊重した保育に活かしていくようにする。 ・共同研究園のテーマに沿ったエピソード記録を全職員で協議し、研究テーマに迫る保育実践について積極的に取り組む。 ・共同研究園での園内研究会を通して、互いに学び合い、自園の保育にも取り入れると共に、職員全体で連携し、チーム保育の実践力の向上につながるようにする。	・月2回短期指導計画及び、3学級合同での戸外環境図を基に、遊びのねらいや環境の構成について協議をする機会をもち、互いに共通理解を図る場をもつ。 また、保護者アンケートの研究に関する項目の割合が80％以上になる。 ・エピソード記録を用いた研修を学期に1回のペースで行い、共同研究園でのテーマを共通理解し、全職員で保育実践につなげていく。 ・園内研究会を年2回実施、共同研究園での園内研究会に積極的に参加し、研究を深めると共に自分で考え決定して行動する子供の姿につながるよう保育実践を重ねる。	B	・短期指導計画について、1週ごとに子供の実態を振り返り、保育計画の見直しを図ることで、子供達にとってよりよい保育を考えていくことを意識できた。また、戸外環境図について、遊びのねらいや環境の構成について協議をしたり、保育の語り合いを丁寧に行ったりしていくことを意識していけるようにした。 ・エピソード記録を共同研究園で共通の形式とし、保育実践について語り合う機会を自園のみならず、共同園でも取り組むことができた。また、研究テーマの共通理解をする為に、ラベル研を用いて考え合うことができた。 ・園内研究会をする中で、互いの保育や環境の構成について改めて考え合う機会の大切さを感じた。今後も園内研究会のみならず、日々の実践を振り返ったり環境を見合ったりする機会を持つようにしたい。	・短期指導計画や戸外環境図を基にした話し合いの時に、子供達の興味関心に基づいた遊びや、個々の様子について語り合い、全職員で子供達にとってよりより保育に繋がるよう共通理解を密に図ることを今後も意識して行っていく。 ・エピソード記録を用いた研修を引き続き行い、自ら考え決定して行動する子供の育成に繋がるような環境の構成について学び合い、実践に繋げていくことをより意識して行っていく。 ・自園や共同研究園での園内研究会に積極的に参加し、より多くの職員と保育実践について学び合ったり、語り合ったりする中で、チーム保育の実践力の向上や、全職員で環境の構成をより良くしていくことを今後も行っていく。	・研究テーマに沿って取り組み、成果と課題を細かく検討し、職員同士でよく努力されている。 ・年齢や経験差がある職員同士の研修の場は、教師の資質向上のためにも必要不可欠である。今後も保育の質を高めるための取り組みに期待する。
	実 インクルーシブ教育・保育の推進と充	・組織的、計画的なインクルーシブ教育・保育の充実に努める。	・個別指導計画を基に、全職員で子供の実態や必要な手立てについての共通理解を図り、連携を取り合いながら園全体で支援にあたる。 ・学期に1回以上のにじいろだよりの発行、及び、にじいろ広場実施時のホームページのタイムリーな更新を通して保護者啓発を図り、本園のにじいろ保育の取り組みやインクルーシブ教育・保育への理解を図る。 ・子供の実態や課題、親子の関わりに即したにじいろ広場を計画的に実施する。	・保護者アンケートのインクルーシブ教育・保育に関する項目において、肯定的な評価が80％以上になる。 ・個別指導計画や短期指導計画の話し合い、にじいろチーム会、各学年におけるチーム会、保育前後の担任と担当での打ち合わせ等、様々な場を通して子供の実態や必要な支援について話をし、職員間で連携を図りながら支援していく。 ・子供の実態や課題に即したにじいろ広場を年間 10 回以上実施する。	B	・個別指導計画の話し合いを丁寧に行って職員間で共通理解を図ると共に、職員会議時だけでなく、にじいろ、及び学年のチーム会、保育前後の職員間での打ち合わせ等を通して必要な支援について話をし、全職員で連携を図り合いながら支援にあたることができた。 ・子供の実態や課題に即した内容でにじいろ広場を年間13回実施すると共に、毎回の広場後にホームページを通してその取り組みや行った遊びで育まれる力等をタイムリーに発信し、啓発を行った。	・全職員でチームとして保育を行っていく中で、職員間での共通理解と連携が欠かせない。今後も個々に応じた一貫した支援を全職員で行っていけるように、職員間でのタイムリーな情報交換、情報共有、話し合いを引き続き行っていく。 ・今年度のにじいろ広場の反省や参加した保護者の方の意見をもとに、次年度のにじいろ広場の回数や時期、学年の分け方、内容等を計画し、より個々の課題やニーズに応じたにじいろ広場になるよう取り組んでいく。	・発達に課題のある幼児を多く受け入れている現状がある中で、どう保育を進めていくか試行錯誤の毎日だと思うが努力ぶりが窺える。インクルーシブ教育の取り組みは公立幼稚園の強みなので自信をもって保育にあたってほしい。

豊かな心・健やかな身体	人権教育の推進・充実	・子供・保護者へ人権教育を推進する。	・自己がかけがえのない存在であると共に、友達や家族も大切であることを実感できるような啓発を推進する。 ・絵本や紙芝居等の教材を使った活動や保護者懇談会、研修会を行う。 ・年に 1 回身近な生活の中で差別や偏見に気づき自分自身を見つめるというテーマで保護者研修会を行い、保護者の方が学べる機会をつくる。	・保護者アンケートにおいて「幼稚園は、子供が園生活を通して、自分を大切にすることや、他の人への思いやりの気持ちを育てる保育を行っている」の項目の回答が80％以上になる。 ・人権教育につながる絵本や紙芝居を園児に読み聞かせる機会を意識してもつ。 ・個人懇談・学級懇談等を通して子供の姿や成長について話をする機会をもち、保護者の人権意識を高めていく。 ・保護者研修会を年に1回行う。	B	・自分の気持ちを伝えることの大切さを知らせたり、保護者への感謝を伝えることを保育の中でも意識をすることができた。 ・人権教育につながる絵本を読み聞かせる機会をもつことができた。 ・個人懇談や学級懇談を通して子供の成長について保護者と共有する機会をもつことができた。 ・幼児教育資料・親子ノート「すくすくひょうごっ子」を活用し、保護者研修の中で自尊感情をテーマに研修を行い、子育てについて振り返る機会をもつことができた。	・引き続き、自分の思いを伝えることの大切さを伝えたり、他者への思いやりを育てる保育を意識したりしていく。 ・人権教育につながる絵本の読み聞かせを引き続き取り入れていく。 ・個人懇談や学級懇談を通して子供の成長を共有する機会を大切にしていく。 ・今後も、今回のように幼児教育資料・親子ノート「すくすくひょうごっこ」などの資料も活用しながら保護者研修を行い、子育てについて振り返ったり、話し合う機会を設けたりするようにする。	・生涯教育の入口である幼稚園において人権教育は欠かせない。それぞれの個が尊重され、互いに認め合える集団づくりに向かって今後も努力してほしい。
	体力の向上	・基礎的な体力の向上に努める。	・子供の実態、発達に合わせて必要な動きの経験ができるように、運動遊びを計画的に保育に取り入れていく。 ・全学年での体操の時間を設けると共に、好きな遊びでも異年齢で一緒にダンスや体操が楽しめる環境を構成していく。 ・子供が主体的に体を動かして遊べるように、クラス活動と好きな遊びとのつながりを考えた保育内容や環境をつくる。	・各学年で、身体表現や体操等、体を動かす遊びを週に 1 回以上取り入れていく。 ・体操やダンスの曲目や運動遊びの環境は戸外環境の話し合いの時に見直していくと共に、子供の興味・関心や遊びの様子に合わせてその都度変えていく。 ・保護者アンケートにおいて「運動遊びの楽しさを感じており進んで戸外で遊ぼうとする」の項目の回答が80％以上になる。	B	・各学年で律動等体を動かす遊びを週に1回以上取り入れることができた。特に運動会後は、他学年のダンスやしっぽ取り、サーキット等運動遊びを楽しむ姿が見られた。 ・ハロウィンの衣装を着て踊るなど子供の興味関心に合わせて様々な曲でダンスを楽しんでいたが、全学年での体操の時間は運動会以降設けることができなかった。 ・保護者アンケートでは、80％以上の肯定的な回答を得ることができた。 ・好きな遊びでは室内遊びを好む子供もいるため、今後も意図的に運動遊びの機会を作り、体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきたい。	・引き続き、週に1回以上身体表現や体操等、体を動かす遊びを取り入れ、子供の実態や発達に応じて必要な動きの経験ができるようにしていく。 ・教師からだけでなく、友達の動きを真似たり、一緒に遊んだりしながら体の使い方を学んだり、体を動かして遊ぶ楽しさを感じたりできるように、異年齢での関わりを大切にしていく。 ・そのためにも、幼児理解を深め、短期案や戸外環境を考える時に、教師間で情報共有し、全職員で保育を考えていくようにする。	・幼児期は体格的にも大きく変化するときであるので、運動に親しめる環境づくりは重要だ。場をつくるだけでなく、継続した取り組みに期待したい。
	基本的生活習慣の確立	・基本的な生活習慣を身につける。	・子供が自ら清潔習慣を身につけられるように、環境の構成を考え設定する。 ・「ほけんの話」や「けんこうカレンダー」を活用し基本的生活習慣の形成を図る。 ・保護者啓発として、月1回以上の「ほけんだより」等を配信し、保健活動の様子を伝える。	・視覚的な表示等ですべての子供が主体的に清潔習慣に取り組めるようにする。 ・月に1回「ほけんの話」をする時間を設けると共に「保健だより」や「けんこうカレンダー」等で家庭で取り組む機会をもつ。 ・保護者アンケートで「基本的な生活習慣の習得についての啓発」の回答が 80％以上になる。	B	・「保健だより」や「けんこうカレンダー」の取り組みを通して家庭で生活習慣について話し合う機会を設けた。 ・子供の様子を職員間で共有することで早期に保護者との対応ができた。 ・保護者アンケートでは、98.1％の肯定的な回答を得ることができた。	・月 1 回の「ほけんの話」は年間計画と同時に日程も意識して取り入れるようにする。 ・子供の様子を職員間で共有し、連携して子供に関わり、子供も保護も安心して過ごしてもらえるよう対応していく。 ・引き続き、市のガイドラインに基づき感染対策と事故防止に努める。	・年々、家庭の意識も多様化し、生活習慣の形成が難しくなっていると思うが、今こそ長年に渡り取り組んでいる健康教育を続けていってほしい。

開かれた信頼される園づくり	拠点園としての役割の推進	・D ブロック拠点園としてブロック内の研修研究、幼小接続、インクルーシブ教育を推進する。	・ブロック内の各施設に園内研究会、にじいろ広場等の拠点園事業への案内をし、共に学び合える場を設定する。 ・研修研究、幼小接続、インクルーシブ教育に関する情報を発信し、ブロック内に啓発を図る。	・園内研究会、にじいろ広場、にじいろ保育保護者研修会への参加を呼びかけると共に、そのねらいや意義、内容、学び等をホームページやにじいろだよりなどを通じて広く発信していく。 ・園内研究会や授業参観等を通して、実際の子供の姿から幼小の職員で意見交換を行う機会をもち、互いの教育・保育についての理解を図る。	B	・今年度行った拠点園事業(園内研究会、にじいろ広場、にじいろ保育保護者研修会、幼小接続研修会)において、少数ではあるものの毎回ブロック内の施設からの参加があった。また、にじいろ広場では継続しての参加も見られるようになり、拠点園の取り組みが徐々にブロック内に広がってきている。 ・拠点園事業の毎回の取り組みをホームページやたよりを通じてブロック内、及び本園保護者に発信、啓発した。	・拠点園事業として行う各種研修会を年度当初に計画し、早めにブロック内に周知することで参加につなげ、共に学び合える場となるようにしていく。 ・本園として行った瑞穂小や緑丘小との交流、連携、接続に向けた取り組みを次年度につなぎ、定着させていく。そして、その中で築いていった関係性や取り組みを徐々にブロックに広げていけるよう努めていく。	・拠点園やその役割は、地域内の幼児や保護者にとって必要な場であると思われるので、今後も充実した取り組みに期待する。
	教育活動への理解推進	・家庭や地域に積極的に情報発信する。	・Googleクラスルームを活用して子供の様子を動画であげて教育内容を伝えていく。 ・ホームページ、各クラスの掲示板に子供の写真を掲示し、その時の育ちや大切にしている教育内容をタイムリーに知らせていく。 ・学級だよりや園長だより、にじいろだより等を通して園の教育内容をわかりやすく伝えていく。 ・地域のネット会議や学校運営協議会等に参加し、就学前教育の大切さをアピールしていく。	・Googleクラスルームでの映像の配信を月１回以上実施する。 ・ホームページの発信は行事毎に担当が行い、定期的またタイムリーに更新するようにする。月３回以上を目指す。 ・学級だよりや園長だより、にじいろだよりについては、月１回程度、行事毎に発行し、教育内容や就学前教育の大切さをわかりやすく丁寧に伝えていくようにする。 ・地域のネット会議に月１回参加し、地域に幼稚園の教育を伝えていく。また学校運営協議会においても年５回程度参加し、園の教育をアピールする場としていく。	A	・教育情報の配信等については、アンケートにて肯定的な意見が 90％以上であった。 ・映像の配信を月1回以上実施することができた。また、園だより等を配信にし、業務改善とペーパーレス化を進めた。 ・ホームページの発信は月3回程度更新することができた。 ・学級だよりや園長だより、にじいろだよりについては、月１回程度配信し、教育内容や就学前教育の大切さを伝えることができた。 ・地域のネット会議や学校運営協議会において園の教育をアピールすることができた。	・今後も保護者のニーズを受けて。音声を入れた映像の配信を進めていく。 ・ホームページ等を活用し、日々の保育の様子を視覚的に分かりやすく発信する。 ・学級だより、動画の配信、ホームページ等の媒体の活用については、地域や保護者の方々に園の教育内容を分かりやすく伝えることを目的にはするが、業務改善の視点からも職員で話し合い、よりよい方法を検討していく。 ・地域のネット会議や学校運営協議会で教育内容を伝えてきたことで、関心が高まってきているので、今後もアピールの場を大切にし、接続へとつなげていく。	・よく努力されていると思う。今後も何のための発信かを考えながら取り組んでいってほしい。
	子育て支援の推進	・家庭と地域と園とで連携した子育て支援の推進を行う。	・地域の幼児教育センターとしての役目を果たす為にも、園庭開放やみんなのひろば事業等を支援していく。 ・PTA活動の中で保護者同士が交流を深めることができるようにサークル活動やボランティア活動等を大切にしていく。 ・みずほ幼稚園の地域の良さを感じることができるように、地域の方の交流をしたり、散策に出たりする機会をつくったりする。	・園庭開放を毎日行い、参加者数を増やしていく。また、地域の未就園児の参加が増えるようにする。みんなのひろばについても、毎回の交流を未就園の子供との貴重な関わりの機会として位置づけていく。 ・PTA活動では絵本・ペーパークラフト・園芸等が立ち上がっているので、活発に活動が行えるように働きかけていく。絵本サークルによる読み聞かせを学期に１回実施する。	B	・年度当初に園の教育方針について各クラス毎に園長が話をする機会をつくり、家庭と連携して教育活動を進めていく基盤を作ることができた。 ・園庭開放やみんなのひろばの参加数も増え、公的な場の活用が進んだ。 ・PTA活動として、サークル活動や行事への協力、清掃活動等が活発に実施できた。 ・地域への散策が行事等の兼ね合いで難しかった。	・年度当初に教育方針について分かりやすく伝える工夫をする。 ・みんなのひろば等での未就園児との交流の場を大切にしていく。園庭開放についても、子供達にとって安心安全に遊ぶことができる場であるようアピールしていく。 ・PTA活動については、活発になってきているので、主体的に運営ができるよう今後も支えていくようにする。 ・地域への散策については年度当初に計画を立てるようにする。	・地域との交流等、今できることを大切にして取り組まれている。安心して遊べる場であるので園庭開放は続けていってほしい。 ・保護者のほうから声をかけやすい雰囲気づくりは必要である。

学校関係者評価総括

・全体を通して、各項目に沿って目標に向かって丁寧に取り組み、成果と課題も的確に捉えられている。また、改善に向けて具体的な改善策が見られていることも良いと思う。

次年度に向けた重点的な改善

・D ブロックの拠点園として、研究推進・インクルーシブ教育・保育、幼小接続をさらに進めていく。また共同研究園と連携し、公開保育に向けて、質の高い保育の向上に取り組む。